

登録コード	J5460200	開講年度	2026			
授業科目	産業組織論B				担当教員	本多 純
英文授業名	Industrial Organization B				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限	対象学年
講義室	経法第1講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目	(23カリ対象科目)経:2年
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	経法23加(2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済					
	専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。				専門知識を応用・実践する力として、自ら立てた問いに対する仮説検証と多角的な議論を積み重ね、エビデンスに基づいた説得力のある提言を導き出す力を身につける。	
	【2020年度以降加枠対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、金融、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。				専門領域での基礎知識として、企業・政府の戦略や法規制の枠組みを実社会のデータに適用し、市場メカニズムを解明することで、既存概念に捉われない独自の洞察を論理的に構築する力を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム	ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース					
(4)授業の概要	「産業組織論A」で修得した経済学的ロジックを、現実の社会でどう使いこなすか。本講義は、学生が主役となり特定の産業や企業を徹底的に解剖する、実践的なアクティブラーニングの場です。 1年次の「新入生ゼミナール」で行った教科書の読み解き（輪読）から一歩進み、本講義では自ら市場データや政策資料を収集・分析する能動的な探究へとステップアップします。 具体的には、グループ単位で業界の社会課題、規制、企業の競争戦略を多角的に調査し、その結果を報告します。教員や他学生との議論を重ねることで、分析の精度を磨き上げていきます。経済学の考え方を現実に対はめ、複雑な経済の仕組みを自力で読み解く高度な分析力と、論理的に伝える発信力を養います。					
(5)授業計画	本計画は、各グループのプロジェクト進捗や議論の深掘り度合いに応じて、順序や内容を柔軟に調整します。 第1回 【ガイダンス】 授業の進め方とグループ編成 第2回 【問いの設定と仮説構築】 産業・業界の選択と問い・目的の特定（例：なぜこの業界は参入が難しいのか？なぜ価格転嫁ができないのか？） 第3回 【リサーチ・デザイン】 仮説を検証するための調査・データ（一次資料）の特定と収集計画 第4回 【産業構造の予備調査】 市場規模や主要プレイヤー、規制環境の把握（問題の背景整理） 第5回 【中間報告：問いとメカニズムの提示】 分析の目的と、想定される経済学的ロジックの発表 第6回 【議論とリサーチの修正】 フィードバックを受けた仮説の再構築と調査範囲の調整 第7回 【データによる実態検証】 決算資料や統計を用いた、市場構造と企業行動の定量的・定性的分析 第8回 【経済学的フレームワークの適用と深掘り】 産業組織論のフレームワーク（価格戦略、参入障壁等）を用いたメカニズムの解明 第9回 【中間報告：分析結果の提示】 データに基づいた仮説の検証結果と、残された課題の報告 第10回 【討論と深掘り】 他グループからの視点を取り入れた、分析の死角の補完 第11回 【解決策・処方箋の検討】 企業の戦略的変更や、政策・規制（独占禁止法等）による是正案の考察 第12回 【効果予測と社会への影響】 提案した処方箋が、市場の効率性や消費者便益に与える影響の評価 第13回 【最終成果報告：産業のトータル解剖】 問いから解決策までを一貫した論理で提示するプレゼンテーション 第14回 【全体討論とピア・レビュー】 クラス全体での総括的な議論と、グループ間の相互評価					

(5)授業計画	第15回 【振り返りとレポート執筆】 プロセスの再考察と最終レポートへの適用、アンケート ----- レポート提出 本講義では、学生の理解度を測り、より深い学びを促進するために、シラバスに明記された主要な中間報告（最低2回）に加え、授業の進捗状況に応じてeALPS を活用した小レポートや確認課題を課す場合があります。追加の課題を実施する場合は、十分な準備期間を設けた上で授業内にアナウンスします。 【履修のポイント：理論から実践へ】 本講義は、前期（A）と後期（B）を継続して履修することで、以下の3つのステップを通じた専門性の獲得を目指します。 ・知識から知恵へ： 前期に学んだ市場構造や戦略的相互作用といったフレームワークを、後期には自ら問題を解決するための具体的な分析手法へと昇華させます。 ・実社会データの解読（実務スキルの養成）： ニュースの表面的な理解に留まらず、企業のIR資料や行政文書（白書・実態調査）を経済学的に読み解く実務家レベルの分析スキルを習得します。 ・対話による論理の磨き上げ： 教員や他学生との徹底的な議論を通じ、自らの考えを客観的な根拠（エビデンス）に基づいて論理的に伝え、他者を説得する発信力を鍛え上げます。
(6)成績評価の方法	・授業内でのグループ発表および提出物（80%） 調査内容の論理性、データの裏付け、資料の完成度、およびプレゼンテーションを総合的に評価します。なお、評価の公平性を期するため、報告準備における各メンバーの役割分担や寄与度（グループ内での貢献）についても、報告後のフィードバック等を通じて加味する場合があります。 ・授業内での討論・質疑応答への貢献（20%） 発表に対する質問・コメントの鋭さや建設性を評価します。単なる感想ではなく、論理に基づいた疑問・新しいデータの提示・他者の意見を踏まえた議論の深掘りなど、クラス全体の学びを一段深めるような発言を高く評価します。
(7)成績評価の基準	授業計画に示したグループ報告およびクラスにおける討論等の貢献度によって評価します。具体的には、新入生ゼミナールでの理解・説明の基礎の上に、調査（データ）活用・論理的分析を加えた下記の4つの観点から評価します。 (i) 調査・分析の適切さ： 市場調査（データ）、決算資料、政策ドキュメント等を自ら収集し、産業組織論Aで学んだ経済学的フレームワークを正しく適用して業界構造を解剖できている。 (ii) プレゼンテーションの論理性： 情報を整理し、聞き手が業界の核心を理解できるよう、論理的な構成と視覚的な工夫（図解等）を用いて説明できている。 (iii) 双方向の議論への貢献： 質疑応答において的確な根拠を持って回答し、他者の報告に対しても建設的な批判や新たな視点を提供することで、クラス全体の学びを深めている。 (iv) 独自の洞察・提言： 既存情報の整理に留まらず、分析結果から導き出される独自の考察や、現実の政策・企業戦略に対する評価、あるいは改善策を提示できている。 (i)から(iv)の4項目を満たし、かつ教員や周囲を深く納得させるレベルにあれば「卓越している」、4項目を満たしていれば「かなり上にある」、3項目までできていれば「やや上にある」、2項目までできていれば「水準にある」と判断します。
(8)事前事後学習の内容	・事前学習： 担当業界のIR資料、業界団体レポート、政府白書（経済財政白書、ものづくり白書等）の収集と読解。グループ内での議論を通じた分析の組み立てと、報告資料の作成。 ・事後学習： 授業での質疑応答や教員からのフィードバックを反映させた、最終レポートの執筆。他グループの報告内容を自らの分析対象と比較し、共通点や相違点を整理する。
(9)履修上の注意	・論理的・データリテラシーの重視 「産業組織論A」で修得した経済学的ロジックを、現実のデータを解釈するための道具として活用します。数式そのものの計算能力以上に、決算資料や統計データから何が起きているのかを論理的に導き出す思考力が求められます。前期の学びを土台に、より実践的な分析スキルを磨く意図を持って受講してください。 ・グループワークへの主体的参加と責任 本講義はグループ単位での活動が中心となるため、対面での出席と積極的な議論への参加が不可欠です。自身の欠席はグループ全体の進捗や評価に直接影響を与えるという自覚を持ち、責任感を持って取り組

(9)履修上の注意	んでください。 ・デジタルデバイスの活用 情報の検索、共有、およびプレゼンテーション資料の作成にネットワーク接続可能なデバイス（PC推奨）を多用します。eALPSを通じた資料共有や共同編集を円滑に行えるよう、毎回の持参を前提とします。
(10)質問、相談への対応	・対話による深掘り 質問を議論を磨くエンジンと捉え、活発な意見交換を歓迎します。グループ内での議論はもちろん、報告後の質疑応答においても、教員・学生といった立場を超えた活発な意見交換を強く推奨します。単なる正解の確認に留まらず、異なる視点を取り入れることで、自分たちの論理を磨き上げ、独自の洞察へと昇華させるプロセスを大切にしてください。 ・継続的なフィードバックとリサーチ支援 授業時間内に収まらなかった深い議論や、資料収集・分析手法に関する個別相談は、eALPS等のフォーラムやメッセージ機能で随時受け付けます。プレゼンテーション後の振り返りや、他グループへの追加質問・情報共有も歓迎します。クラス全体で優れた視点を共有し、互いの分析精度をボトムアップさせていく場を目指します。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	・産業・企業分析のためのリソース・ガイド グループ報告の質を高めるための情報の探し方をまとめたリストです。EDINET（有価証券報告書）、各省庁の白書、公正取引委員会による実態調査報告書など、信頼性の高い一次資料へのアクセス方法と、それらを経済学的に読み解くための着眼点を提示します。 ・ケーススタディ・アーカイブ（実例と審決例） 独占禁止法上の事例集を紹介します。理論が実際の法執行やビジネスの意思決定にどう反映されたかを学ぶための、生きた教材として活用してください。 ・分析の高度化に向けた発展資料 「産業組織論A」の範囲を超えた高度な分析手法や、最新の論文を紹介します。グループ独自の視点を磨き、分析の専門性をさらに高めたい学生向けの発展的な内容です。